

DOYU

I W A T E

5
May

2020
Vol.138
同友いわて

よい会社をつくる。よい経営者になる。よい経営環境をつくる。
岩手県中小企業家同友会 | <http://www.iwate.doyu.jp/> |

新入社員入社式

一生に一度の新たな船出を祝って

初めて経験する 感染予防の中で

岩手同友会二〇二〇新入社員合同入社式が、県内二十五社、四十一名の新入社員を迎え、四月一日、ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイングで行われました。

コロナウイルス感染拡大の影響で数日前まで開催の可否を検討してきましたが、「新



入社員にとっては一生に一度。できうる限りの対策を取って迎えよう」と開催することを決定しました。

式典開催にあたっては、普段使用する会場の二倍の大きさの会場をお借りし、また長机一本に一人の座席をとり、机の間隔も一・八メートル開け、席の前後も一・五メートル間を取り社員を迎えました。また当日はマスクの皆さんも多数来場しましたが、全員に流水での手洗い、アルコール消毒、マスクの着用など徹底した感染予防策を講じた上で、式を迎えました。

より良い人生とは どんな人生なのか

挨拶に立った岩手同友会代表理事の田村満氏(株)高田自動車学校取締役会長)は、「二〇一一年の東日本大震災時の四月六日に陸前高田で入社式

を開催したときのことを思い出します。人生の節目、節目のセレモニーには大きな意味があります。その大切な社会人としての第一歩を皆さんで祝えることに、感謝したい。そして新入社員の皆さんには、自分にとってより良い人生とはどんな人生なのか、ずっと考え、追求し続けて欲しい」と話し、新入社員を励ました。

人生で一度の門出を 後押しする機会を

岩手同友会の合同入社式のスタートは、二十六年を遡ることになります。当時、入社する社員が一人から数名の岩手同友会の役員の方々が協力し、「新入社員にとっては人生で一度の門出。地域のために地元企業で働くことを決意した若者の背中を後押しする機会を」と呼びかけ、手作

りで有志で開催したのがきっかけです。以来一度も絶やすことなく続けられてきました。

今回は八社ものマスクコミが取材に訪れましたが、当時はマスクコミも取材には来訪せず、中小企業の魅力を伝えたいと自分たちで撮った写真を新聞社に送り、後に掲載されたということでした。

我われが 復興の担い手になる

そして九年前の二〇一一年の入社式は、東日本大震災発災の僅か一ヶ月も経過しない



うちに盛岡市内のホテルと陸前高田ドライビングスクールで行われました。ほぼすべての事業所の入社式が中止になる中、今回と同様に開催しても良いものか、新入社員も、そして私たち経営者も不安な雰囲気の中でのスタートでした。

その雰囲気が変わったのは、信幸プロテック(株)からおいでいただいた先輩社員の一言からでした。「新入社員の皆さん、前を向いて歩み始めましょう。間違いなく私たち



がこれからの地域の復興を担う、その先頭に立つことになります。さあ地元企業で働く自信と誇りを持って立ち上がりましょう」。

その声に新入社員の表情が漸く緩んだのを、昨日のことのように思い出されます。

若いエネルギーで挑戦を

今回もまだ岩手では感染が広がっていないとはいえ、大変な環境下での開催となりました。それだけに社員の緊張感も高く、不安と期待が入り交じった表情が、いつもにも増して強く感じられました。

新入社員の紹介で一人ひと

りの名前が呼ばれ、元気に立ち上がった新入社員から「宜しくお願いします」の声が出る度に会場から拍手が湧き上がりました。

そして今回も先輩社員からの激励では、岩手日化サービズ(株)下村信人さんから、「私もほんのちよつと前まで、皆さんと同じ席にいた。社会全体がこんな環境下だからこそ、むしろ怖がらず失敗を恐れず、若い力でどんどん挑戦して欲しい」とのメッセージが読み上げられ、緊張した面持ちだった新入社員の背中にエネルギーが宿ったように見えました。

生きがいのある人生を創造しよう

新入社員を代表して決意表明に立った(株)仙北造園 木村愛梨さんからは「大変な環境の中、このような式典を開催いただいたことに心より感謝したい。先輩方が築いてきた各企業の名に恥じぬよう精一杯努力して



いききたい」と宣言。また杜陵テクノ(株)川村遙羽さんに、元教育学会会長大田堯氏の「命のきずな」が記念品として渡され、全体で百名を超える参加者から祝福されました。

記念講演では「生きがいあ

る人生を創造しよう」をテーマに神戸大学名誉教授二宮厚美氏からお話いただきました。二宮氏は岩手同友会の入社式に毎年のようにお越しいただいており、このような環境下の中でも、わざわざ関西のご自宅から陸路新幹線でおいでいただきました。

感染者ゼロが続いている(四月上旬時点)岩手の社会

的風土についてや、テーマである「生きがいのある人生を創造しよう」に込められた意味、生きがいの源泉が人間の本質に関わることであることなど、例年にも増して、豊かな応答、共感関係の中で、生きることの大切さを強くお伝えいただいたご講演でした。

私たちのことを思ってくださいることに感謝

本来であれば翌日から一泊二日で行われる予定だった研修会でしたが、今年は入社式当日を含め、宿泊なしの研修で九月までに四回開催することとなりました。

式典終了後、短い時間ではありましたが、マナーブックを使用し「人間としてのマナー」や「中小企業憲章と勤労観(何のために働くのか)」、「大きなめあてと人生設計」など、働くことと生きること考える問題提起が、岩手同友会の事務局長からありました。最後には「帰ったら必ず、ご両親や先輩社員の皆さんに

必ず感謝の思いを伝えること」も参加者全員で確認し、次回五月、WEBで開催予定の研修会での再会を約束しました。

新入社員からの感想では「ここまで私たち一人ひとりのことを考えてくださっていることに、感謝したい」という声も多数ありました。このような環境下で設営の緊張は大変なものでしたが、参加者全員が「開催して良かった」と心から思った、歴史に残る新入社員入社式となりました。



新入社員感想

「晴れの日の決意」の一言をご紹介します。(紙面の関係で数名のご紹介になりますことご了承ください)

●私は今日を迎えるまで、楽しみな気持ちと責任が出ることに不安な気持ちがありました。社会人として自ら積極的に仕事に取り組むことの大切さを学びました。感謝の気持ちを忘れず前向きに進んで参りたいと思います。
(株)アート不動産 川上郁美

●最初はわからないことばかりですが、地域の方々から見たら、新入社員も会社の一員として見られると聞いて、マナーや挨拶をしっかりやってきたいと思いました。
(川上塗装工業(株) 勝浦遙香)



●入社式はとても緊張するものだと思いますが、無事に開催できて、とても嬉しくも思いました。入社式を終えて、新社会人として頑張っていきたいと思いました。
(森田製作(有) 藤原知輝)

●二宮先生の話聞くまで「生きがいのある人生」については、考えることはありませんでした。講演を聴いて、明日から自分がすべきことについて考えることができ、とてもいい経験となりました。
(S建築デザイン室(有) 鍛形星南)

●明日からどう生きていくか、何のために働いていくのか、目的を定めて行動していきたいと思えます。
(有)装美 佐々木凜)

●最初から最後まで学びと新しい発見がありました。不安に思っていたのが私一人だけではないことがわかり、驚きました。このような中、式典を開催して下さり、有り難うございました。
(有)セイショウ 安藤七海)

●社会に出ることでどんな良いことがあるのかを知ることができて、良かったです。岩手県内の企業に勤められることを誇りに、これからも頑張っていきたいと思えます。
(大野ふるさと公社 小田恵)

●「働く」ということ、「働きがい」について深く考えるきっかけを得ることができました。私たちは漠

然としてではなく、周りの人のためや相手への思いやりを持つことができます。あらためて両親や支えてくださる周りの皆様への感謝の気持ちを大切にしていきたい。
(株)ヘアレン醸造所 大阪彩瑛)

●今日の入社式を終えて、本当に自分は社会人になったのだなと実感がやっと湧きました。大変なまでに、式典を開催いただいたことが、とてもありがたいと思えました。
(有)くらし建築工房 伊藤美夢)

●自分の名前が呼ばれるまでの間、とても緊張していましたが呼ばれた後は、よりよい社会や生活をつくるための強い決意を抱くことができました。講演から「何のために働くか」について、この思いを大切に明日から頑張りたいと思つた。
(株)鈴木測量設計 今井孝之)

●今日から毎日目標を立て、一日一日成長していきたいと思えました。何気ない挨拶一つ一つに心を込めて勤めていきたいと思えます。
(信幸プロテック(株) 立花翔太)

●あらためて働きがいがある人生の大部分を占めていて、なおかつ達成感や成長を感じる大部分を占めていて、人生の大事な部分であることを感じました。自分の中に落とし込んで意識し、働けたらと思えました。
(住工房森の音(有)美建工業 二子石大智)

2020 岩手県中小企業家同友会新入社員合同入社式

同友会の三つの目的

1. 同友会は、ひらく会員の経験と知識を交流して企業の自主的活性化と組織の改善発展を促すことをめざします。
2. 同友会は、中小企業家の自主的協力によって、相互に援助を認め、知識を授け、これからの経営第一歩を歩む機会を創出し、発展を促します。
3. 同友会は、他の中小企業団体と連携して、中小企業をとりまく社会、経済、政治的立場を把握し、中小企業家の経営を守り育て、日本経済の向上に、積極的に貢献していきます。

岩手県中小企業家同友会



今こそ「気づき」の絶好の機会！

七十二名が会場とオンラインでつながる、初の特別例会

緊急例会 岩手同友会新型コロナウイルス関連 緊急特別例会&金融、雇用対策説明会が三月二十四日、岩手酒類卸ビルで開催されました。当日は初めて会場からZoomでのオンライン中継が行われ、会場四十一名、オンライン参加三十一名の合計七十二名が一つの空間でつながった例会となりました。



冒頭田村満代表理事から、「東日本震災の時を思い出しますが、経営者はこんな時にこそ表情も声も、ありつたけいときなんだと思います。社員も地域もその姿をよく見ている。まさに中小企業が地域の暮らしを支えていることを示す、絶好の機会」と挨拶があり、開会しました。

第一部では、今後の資金と雇用をどうするかの説明会として行われ、日本政策金融公庫盛岡支店から中小企業事業統轄、出穂洋一郎氏に直々にお越しいただき「困っている中小企業を全力で支援する。まず窓口でも電話でもいい、相談をしてほしい」と話しいただきました。終了後は個別相談にも乗ってくださいました。加えて農林水産事業についても支援策をお話いただきました。また岩手労働局からは主に雇調金についての説明を丁寧に行ってくださいました。その後社会保険労務士法人

ワイズコンサルタンツ 山本正人氏から「今お伝えしたいこと」をテーマに、経営者が今何をすべきか、特別に話題提供をいただきました。

そして第二部では「皆さん、今後の会社、事業への影響に不安はありませんか？」と現状を語りあい、こんなときにこそ連帯の力で乗り切ろう！をテーマに、四人が報告に立ちました。以下要旨をご紹介します。

現実は大変。でもだからこそ長い先を見た対応を

(南)くらし建築工房

代表取締役 中村喜一氏

「今日のような金融支援や雇用の支援策など使える公的なものはすべて利用して、企業と雇用を守る。その上で大切なのが企業間の連携だと思います。まさに同友会の出番ですね。一社ではできないことも、それぞれの企業には持ち味も強みもあります。むしろこの時期だからこそ互いに訪問し合ったり、情報交換の場をもつたりできる絶好の機

会です。

もう一つ大事なのが、それぞれの企業の社員の皆さんのことです。どうしてもおろそかになりがちですが、現場現場で責任を持った社員に負担が大きいのしかかってしまいます。私たち経営者自身も同様ですが、長くかかる道のり、社員一人ひとりの健康にも配慮していきたいものと思えます。」

今はぐっと耐えるが、のろしを上げるタイミングはいつかを図るのが経営者

(株)八木澤商店

代表取締役 河野通洋氏

「今は踏ん張り時なので、ぐっと身を縮めて、いざコロナが収束したときにドンといけるように中小企業は準備をしておくこと。コロナの影響はもう長く続くことはわかっている。間違いなくリーマン以上の影響がある。むしろ金融恐慌時にどんなことが起きてきたのか、歴史から学んでおく必要がある。うちは関係ないと思ってる方もおいでと思いますが、



決して甘く見ない方がいい。今欧州では完全な戒厳令です。店はすべて閉まってしま、経済も暮らしもストップです。今後日本がそうならなとは限らない。もしそのときに、経営者が白旗をあげさえしなければ、会社は絶対につぶれません。

でも問題は今回は攻めの戦略が打てません。徹底して企業を守るための籠城が必要。可能性もあります。そのとき、兵糧がなければ生きていきません。その準備のために経営者が全力で動いているか。そして大切なのはその後です。反撃ののろしをいつあげるか。どのタイミングで、どんな武器でのろしをあげるのか。それを決めるのが経営者です。」

同友会の真実は インプットではなく アウトプット

(株)高田自動車学校

取締役会長 田村 満氏

「自社の真の経営課題に気づく場が支部地区の例会。そしてその課題解決の場が同友会の様々な活動なんだ」と言われています。「でも今は支部例会が開けない」と聞きます。支部例会がないなら、それぞれチャンス。同友会には様々な業種業界の方々がおいでになります。中には入会三十年というベテランもおいでになります。四百名の会員一人ひとりを訪問するだけでも、様々な気づきを得ることができると同友会です。



「例会を開くことが目的ではなく、気づくことが目的ですね？そうであれば、どんな方法からでも学ぶことができるはず。むしろそうしたことにじっくりと取り組めるチャンスではないかと思えます。」

こんな時にこそ 「未来のタラ・レバ」を 皆で考えるチャンス

信幸プロテック(株)

取締役会長 村松幸雄氏

「こんな時にこそ『タラ・レバ』が大切だと思います。社員と一緒にじっくり話せるチャンスでもあります。河野さんの話を聞いていて、真田丸のような感覚を得ました。これから来ることに對して、どのように対処していけばいいのだろうかという色んなタラ・レバを皆さんの目の前に現れるあらゆるものを、沢山沢山書き出して、それを一つ一つ、つぶして試みてみてください。それが全部つぶすこ

とができなければ、どこかの誰かが必ずそれをやってくれます。

だからこそ、一つ一つの戦略について、今の時期に本当に正しいのかどうなのかをしっかりと見極めて欲しいのです。こんなことがあつたらこの逃げ道、こんな必要が出てきたら、私たちの出番とか。私たちが今まで強みと思っていたこと、反対に弱みと思っていたこと、実はこれは全部私たちの出番でもあるし、磨かなければいけない。もしかしたら実現するためのカリキュラムを書いてみたら、三年もかかるものが出てくるかもしれない。

こんな時こそ、前もって皆でじっくり考えることができる場なのだと思えます。何をやってもうまくいっているときは考えないんです。このとき、このチャンスを皆さんがしっかりと考えていって欲しいと思えます。」

〈15週連続〉

岩手同友会のWEB例会がいよいよスタートしました!!

「危機を乗り越え、展望を描くための

「三二歴史&経営実践シリーズ第1弾」

「同友会運動60年の歴史に学ぶ危機対応(岩手版)」

【毎週月曜日14時00分〜15時30分 Zoomでの配信予定】

コロナ禍の中、四月二十日から岩手同友会のWEB例会がスタートしました。

三月からこれまでの間、行事の自粛等で支部地区での日常の学び合う場、語り合う場の確保が難しく、皆様から沢山のご要望が出ていました。

今後長期にわたり、これまでのような沢山の方々との交流や実際にテーブルを囲んでのグループ討論が難しい環境下となることと予測されます。そこで過日の理事会では、「一社もつぶさない、つぶさせない」に加え、「決して一人にしないさせない」を掲げ、このような危機だからこそ、会員一人ひとりの顔が見える活動を丁寧に行っていくことを決定、オンラインでの活動方法の検討をスタートしました。

これまで映像配信を使った例会やZoomを使用した会議等の準備を進めてきましたが、体制が整い順次進めて参ります。今後は各支部地区の例会なども、できるところからオンライン

で順次進めていく予定です。

第一回目となった実践報告「危機をどのように突破してきたか」で報告に立った(株)アト不動産会長 櫻井澄男氏、東日本機電開発(株)取締役会長 水戸谷完爾氏、信幸プロテック(株)取締役会長 村松幸雄氏のお三方は、ご自身の創業や経営を担われたときの体験に始まり、今後のコロナ収束後の展望まで、ご自身の想いを存分に二時間語っていただきました。

こうした機会はむしろじっくりと将来の企業の姿に向き合う機会にもなります。八月までの毎週月曜日に開催予定です。ぜひご活用ください。



ドイツからの風



池田憲昭氏

プロフィール
1972年長崎県生まれ
岩手大学人文社会科学部(ドイツ文化専攻)卒業、フライブルク大学森林環境学ディプロム課程(修士相当)卒業
フライブルク地域を拠点に、ドイツ環境視察セミナーのオーガナイザー、異文化マネージメントのトレーナー、企業サポーター、日独プロジェクトのコーディネーター、専門通訳、ジャーナリストとして活躍されています。2011年9月Arch Joint Vision社を設立 現代表。

春の訪れ、心の静寂、 未来の予感

モクレンの花びらが少しずつ落ちてきて、桜の花が咲き始めました。森では、ブナの若葉が芽吹きかけています。小鳥もあちこちで同時演奏をするようになりました。天気は、晴れたり雨が降ったりと、この時期の典型的な「気



まぐれ」。いつもと変わらぬ南西ドイツの春の訪れです。

しかし今年は一ツだけ違うものがあります。それは「静けさ」です。ここ二週間、コロナ対策で、みんなが「連帯」し、制限された生活を送っています。人々が家の外に出かけるのは、食品の買い物と散歩やジョギングくらい。街の中がかなり静かになりました。街だけでなく、人の心も「静か」になったように私は感じています。

私は森の近くに住んでいるので、普段からよく森で散歩したり、マウンテンバイクに乗ります。生活制限がかかられてからは、時間もあるので、毎日必ず森に行くようにしています。息子とジョギング、娘と秘密の場所に行者ニンニクを採取、妻と長い散歩など。森では、以前と同様に、老若

男女、子連れ、犬連れと様々な人たちに出会いますが、みんなに心の落ち着きを感じられません。すれ違う人の挨拶がとても朗らかです。以前は習慣的で表面的な挨拶が多かったですが、いまは、大半の人

たちから思いやりと連帯感が感じられます。感染予防のためお互いの距離はありますが、心の距離は縮まったような感じを受けます。以前は、忙しさを森の中に持ち込んでいるキリキリした雰囲気の人達がよくいましたが(私自身も時々そうでした)、今そういう人がほとんどいないのです。みんなが「今を生き

て」います。大人に落ち着きがあるので、一緒にいる子供や犬も幸せそうです。生活の自由を大幅に制限されたことが、人々に思わぬ心の自由と余裕を与え、家族や友人との

絆を深め、他人への敬意も高まったのでしょうか。

しかし同時に多くの人たちが、会社の経営や職、お金のやりくり等で、先行きが不透明な現状に不安を抱いています。そこには、国による明確で迅速な意思表示とサポートが欠かせません。

また、過度に緊迫した状況のなかで毎日「戦っている」医療関係者がいます。彼らの苦悩をできるだけ静めるため、できるだけたくさんの方の命を救うために、今大半の国民がやらなければならないことが、静かにしていることです。そして突然強いられたその不便な生活は、人々の心に、もちろん不安を与えましたが、「静寂」と「時間」を与えました。これらは、この後の未来に何かをもたらすと私は思います。

私が尊敬するドイツの作家ヘルマン・ヘッセは、「愛」をテーマに人間の内面を描き、一人一人の内面を変えることで世界を変えようとした。そしてその心の変化の

源として「静寂」を尊びました。ドイツの著名な未来研究家のマティアス・ホルクス氏も、直近のコラムで、人々の内面から未来が作られていくことを指摘しています(私のブログにホルクス氏のコラムの日本語訳があります)。

これから数ヶ月、私たちの世界に大きな変化が起こることが予想されます。これまでの世界でもあったように、苦しく悲しく悔しい事も、混乱や混沌(カオス)も起こるでしょう。しかし同時に、愛情や希望や安堵感を持つことも。一人一人の心の変化が、

より住みよい持続可能な社会に向けた大きな変化を生み出すポテンシャルが、今回の危機にはあると私は感じています。ミクロ物理の世界には「量子跳躍」という現象がありますが、自然は、決定的な瞬間には、ステップではなく「ジャンプ(=跳躍)」します。人間の歴史も今、「跳躍」すべき瞬間に近づいている予感があります。

企業と社員の未来のために

「今できる手」のフル活用を！

「閉塞した環境下で一歩前に思考を拓く」

四月二十二日（水曜日）、皆様から要望の多かった雇用調整助成金に絞って専門家にお話いただきWEB版特別例会を開催しました。

講師には社会保険労務士法人ワイズコンサルティングの山本正人氏をお迎えし、最も新しい情報をもとに撮影録画、途中途中でパネルでの説明を入れながら、めまぐるしく変わる雇用調整助成金制度の

更点や状況を踏まえ丁寧にお話いただきました。

当日はのべ六十五名にZoomでWEB参加をいただき、いま最も注目度の高い内容であることが画面を通して伝わってきました。

何人かの参加者からは、「今日の話からはどうすればこの助成金を使えるかわかった。ぜひ教育訓練をやりたい」と思ったが、その計画づくりと準備をどうしていいかわからない。様式を見ただけで難しく感じた」などの話が寄せられました。

資料の作成や計画の作成は非常に手間のかかる作業です。社長一人の作業ではなかなか難しいことが予想されます。経理担当や総務担当の社員の皆さんと一緒に進めることが手続きをスムーズに進めるコツです。また教育訓練のテーマ作成については、社員

の皆さんとの意見交換を進めながら、「コロナ禍後」の新たな社会、企業の展望を描いて進めることが重要です。

参加者の感想では、「むしろ日頃、目の前の仕事に全力傾注をしている状況だからこそ、じっくりと一つのことに向き合っ

て学び考え、次へ向けて準備する絶好の機会」「この機会に自社の事業定義から見直し、次に現れる新たな世界に向け社員と学び直し準備を進めていく」「今後を考え新たな設備投資を決めた。社員と技術も技能もレベルアップに挑戦したい」など、閉塞した環境下で一歩前に思考を拓くため、大きなきっかけとなりました。



当日の Zoom 画面から

同日の Zoom 画面から

■本紙掲載の例会や諸事業には、所属支部に関係なくどこでも参加できます。ご連絡下さい。■同友会ホームページをご利用下さい。www.iwate.doyu.jp ■例会や役員会などのカレンダーと事業案内を随時更新しています。■本紙掲載事業への出入返信は、同封のファックス返信用紙またはedyuをご利用下さい。

人と自然にやさしい環境を創り
地域型企業として貢献します。

浄化槽
安心安全！
調査・施工
メンテナンス
修理

水まわりの
リフォーム
キッチン
バス・トイレ
洗面

住宅設備の
アフターサービス
エコキュート
ハイロー
FFストーブ

北上営業所
盛岡市黒川 2 2 地割 5 6 番地
電話 019-696-5611

岩手日化サービス株式会社

ゆたかな幸せのために、より良い環境創りで
真の循環型社会を目指します。

浄化槽保守点検
植物
光合成
CO2
BDFの製造・販売
BDF燃料
エネルギー感焼

食用油
感料化
紫波町

shiwakankyo

紫波環境株式会社

岩手県紫波郡紫波町南日詰字小路口70-1
TEL:019-672-2656 FAX:019-601-2686
http://shiwakankyo.com/

し原・浄化槽汚泥収集運搬

オリジナルラベル
ワインを作成します

周年記念、御中元、お歳暮、ノベルティ等

SHIWA
紫波
自園自醸ワイン
岩手県紫波町産ぶどう100%

社名ロゴ
写真OK

包装、
のし無料

12本以上
作成料無料

お申し込み・お問い合わせ
Tel. 019-676-5301
自園自醸ワイン紫波
醸造元
〒028-3535 岩手県紫波郡紫波町遠山宇松原1-11
(株)紫波フルーツパーク

Southern Iwate
DSG サザン岩手ドライビングスクールグループ
Southern Iwate Driving School Group

陸前高田ドライビングスクール 三陸技能講習センター
RIKUZENTAKATA DRIVING SCHOOL Sanriku skill training center

平泉ドライビングスクール 遠野ドライビングスクール
HIRAIZUMI DRIVING SCHOOL TOHNO DRIVING SCHOOL

携帯サイトはこちら
http://
www.si-dsg.com
/mobile

DOYU
I W A T E
同友いわて
2020
Vol.138

2020年5月1日発行
発行/岩手県中小企業家同友会
広報委員会

〒0200878 岩手県盛岡市肴町4-5 カガヤ肴町ビル3F
TEL019-696-4477 FAX019-626-1644
Mail: info@iwate.doyu.jp